

研究開発現場の意見を踏まえた政策形成を一層推進するための 文部科学省における今後の取組み(案)

文 部 科 学 省
予算監視・効率化特命チーム

文部科学省では、副大臣と若手研究者との意見交換会や文部科学省ホームページ上での熟議カケアイ等を通じて、「研究費・プロジェクト系教育経費の効果的予算措置に関する中間報告(平成22年7月29日)」をとりまとめるとともに、同中間報告を踏まえた「予算財政制度の改善に関する提言(平成22年8月30日)」を行ってきた。

また、これらの提言を踏まえ、平成23年度予算案として、科学研究費補助金の一部基金化や競争的資金制度の体系化等の取組みを積極的に推進してきた。

今後とも、同中間報告を踏まえた取組みを着実に進め、文部科学省として広く社会や国民に対して情報提供を行うとともに、研究開発の現場の意見を踏まえた政策形成を一層推進していく観点から、以下について取り組むこととする。

【具体的な取組み(案)】

● 平成23年度予算案に関する取組みの着実な推進

→ 研究開発現場からの声を政策として反映した上記中間報告に関する項目に取り組む中で、特に平成23年度予算案に盛り込まれた取組み¹については、寄せられた意見・提案等を踏まえながら、着実に推進する。

● 特命チームの取組について、文部科学省ホームページへ「わかりやすく」掲載

→ 上記中間報告を踏まえた取組みについては、熟議等で多くの参加者からの意見、提案を受け、積極的な推進が望まれている。現在までの活動について、文部科学省ホームページ上に一部資料の広報がなされてきたものの、わかりやすく積極的な広報が十分になされてこなかったことから、文部科学省ホームページ上で、特命チームの活動や各提案への対応状況についてわかりやすく掲載する。

● 科学技術に関するリアル熟議(現場対話)の開催

→ 総合科学技術会議の「科学技術に関する基本政策について」に対する答申(平成22年12月)においても、研究開発現場の声を政策に反映していくための取組みを進める提言がなされるなど、熟議等を活用した組織を超えたコミュニケーションの重要性が指摘されている。

このため、省内関係部署や研究開発機関等の協力を得つつ、今後の科学技術イノベーション政策において重要となる論点について、熟議で得るべき成果を十分に見据えた上で、効果的にリアル熟議を開催することとする。

¹ ①科学研究費補助金の一部基金化、②競争的資金制度の体系化、③研究費の電子申請システムの充実と研究成果情報の活用促進、④科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」の推進、⑤研究活動に専念できる支援体制整備に向けた専門スタッフの養成